St. Luke's International University Repository

Progress Report on Child- and Family-Centered Care Workshops in 2013-2017

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福冨, 理佳, 西垣, 佳織, 沢口, 恵, 三森, 寧子, 山本, 光映, 小林, 京子, Fukutomi, Rika, Nishigaki, Kaori, Sawaguchi, Megumi, Mitsumori, Yasuko, Yamamoto, Mitsue, Kobayashi, Kyoko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/13302

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

短　報

People-Centered Care 事業（2013～2017年度）「子どもと家族中心のケア 子どもの健康，知ろう，考えよう～子どもの健康を家族と考える学習・交流会」実施報告

福冨　理佳[1)]　西垣　佳織[1)]　沢口　恵[1)]　三森　寧子[1)]　山本　光映[2)]　小林　京子[1)]

Progress Report on Child- and Family-Centered Care Workshops in 2013-2017

Rika FUKUTOMI[1)]　Kaori NISHIGAKI[1)]　Megumi SAWAGUCHI[1)]
Yasuko MITSUMORI[1)]　Michie YAMAMOTO[2)]　Kyoko KOBAYASHI[1)]

〔Abstract〕

In 2003, St. Luke's International University, in cooperation with community members, created the People-Centered Care（PCC）initiative to educate and improve community-based healthcare. The Pediatric Nursing Division has held Child- and Family-Centered Care workshops under the aegis of the PCC program since 2004. From 2013 to 2017, three to five workshops were held annually. Participants were nursery teachers（26.7%）, housewives and dental hygienists（20.9%）, office workers（14.9%）, and nursery nurses（12.1%）. Workshops about（a）cavity prevention;（b）infant cardiopulmonary resuscitation;（c）allergies;（d）prevention of infection; and（e）interacting with children with developmental disabilities were conducted by pediatricians and a town dentist. Faculty members, undergraduate students, and graduate students all took part in the workshops. The workshops were well-received with all participants scoring the program 8.68-9.33（out of ten）on a Visual Analogue Scale administered by questionnaire.

〔Key words〕 People-Centered Care, community members, Child- and Family-Centered Care, Pediatric nursing

〔要 旨〕

2003年より聖路加国際大学では，市民が主体となり専門家と協働しながらコミュニティにおける健康を増進していくことを目指す People-Centered Care（以下，PCC）の創生に取り組んできた。2004年より聖路加国際大学小児看護学教室では，PCC 事業の一環として「子どもと家族中心のケア　子どもの健康，知ろう，考えよう～子どもの健康を家族と考える学習・交流会（以下，学習・交流会）」を開催している。過去５年間（2013～2017年度）で，学習・交流会は年間３～５回開催された。参加者は，年間64～136名であり，参加者の内訳は保育士（26.7％），主婦・歯科衛生士・児童館職員などその他（20.9％），会社員（14.9％），保育園看護師（12.1％）などであった。学習・交流会のテーマは，「齲蝕予防（開催回数：５回）」「心肺蘇生法（５回）」「アレルギー（４回）」「感染症と予防接種（４回）」「子どもへの対応（２回）」であり，小児科の医師と歯科医を講師とし，主に大学教員，大学院生，大学生で運営している。実施後のアンケート調査によると，学習・交流会の内容が「役立った」と回答する参加者の割合はほぼ100％であり，満足度を測定する10段階のビジュアルアナログスケールのテーマ毎の平均は8.68～9.33であった。

１）聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
２）聖路加国際病院看護部・St. Luke's International Hospital, Department of Nursing

受付　2018年10月26日　　受理　2018年11月19日

〔キーワーズ〕 People-Centered Care，市民，コミュニティ，子どもと家族中心のケア，小児看護

Ⅰ．はじめに

聖路加国際大学は，2003年より文部科学省21世紀COEプログラムとしてPeople-Centered Care（以下，PCC）の創生に取り組み，理論化と新しいケアシステムの実践化を進めてきた[1)]。PCCとは，「市民が主体となり，保健医療従事者とパートナーを組み，個人や地域社会における健康問題の改善に向けた取り組み」と定義され[2)]，市民が主体となり専門家と協働しながらコミュニティにおける健康を増進していくことを目指している。

聖路加国際大学小児看護学教室では，その一環として2004年より大学所在地である東京都中央区の市民（子どもの家族，子どもに関わる専門職，その他子どもに関心のある市民）を主たる参加者とし，地域に根ざした活動「子どもと家族中心のケア　子どもの健康，知ろう，考えよう～子どもの健康を家族と考える学習・交流会（以下，学習・交流会）」を続けている。学習・交流会は，①学習・交流会が中央区の子どもや家族にとって健康資源の一つとして活用できる②子どもや家族，専門職との交流を通して連携・協働の手がかりを得る③子どもの健康問題支援ネットワークを構築する，これら３つを目標としている。およそ２カ月に１回，年間４～５回，子どもに起こりやすい健康問題や健康に関するテーマについて，テーマへの関心が高まる季節などを考慮し実施している。内容は，専門職による講義や演習，意見交換とし，開催の前年度の参加者アンケートを参考にテーマ設定を行っている。

参加者アンケートは，学習・交流会終了時に参加者への匿名の自記式アンケート調査用紙に記入してもらっている。質問項目は，参加者の属性（性別，職業，区内在住者または勤務者），学習・交流会の内容および会全体の雰囲気・進行について（①役立った②どちらともいえない③期待はずれだった，の３段階評価および自由記述），今後の開催時期の希望，全体の満足度についてである。全体の満足度の測定は，「とても不満（０）」から「とても満足（10）」の10段階のビジュアルアナログスケール（VAS）を使用している。また，今後希望するテーマや，学習・交流会について自由に意見・要望を記入できる自由記載欄も設けている。

本稿は，過去５年間（2013～2017年度）の学習・交流会の開催概要，そして参加者の概要と満足度についてアンケート調査の結果をもとに報告する。

Ⅱ．学習・交流会の開催概要

１．開催日程

2013～2017年度の学習・交流会の開催時期，および開催テーマを**表１**に示す。子どもに関わる専門職（保育士など）も参加しやすい平日の18時から19時45分の１時間45分とした。開催場所は，主に聖路加国際大学内の教室で，市民が参加して行う演習がある「心肺蘇生法」は，シミュレーション教室で実施した。運営は主に，大学教員，大学院生，大学生が担っている。なお，参加費（資料印刷費，飲料代）として一人500円を徴収しているが，これは気軽に参加できることや，専門職が参加する場合に所属機関からの参加承認が得られやすいことを考慮している。また，乳幼児を連れて参加も可能になるよう，預かり保育を行い，これについては別途700円を徴収し，学生アルバイトでシッターを雇用する費用に充てている。

２．学習・交流会の内容

学習・交流会は，５つのテーマを組み合わせて行った。テーマの内容を以下に示す。

１）齲蝕予防

毎年，６月４日の「虫歯の日」に近い日程で開催している。歯科医による齲蝕の原因，歯磨き，フッ素の効果などの予防歯科についての講演後，歯科衛生士による歯磨き指導を行う。家庭での歯磨きを想定できるよう教室の床にマットを敷き，歯科衛生士による口腔内チェックと歯磨きの方法の指導，親子で仕上げ磨きの練習ができるようなプログラムとなっている。

２）心肺蘇生法

小児科の医師を講師に，子どもの事故の特徴，家庭で気をつける予防，心肺蘇生法の知識を学び，技術の習得に向けての演習を行う。子どもの事故は夏に件数が多いため注意喚起となるよう７月または８月に開催している[3)]。５～６名の各グループに最低１名の実技ファシリテーター（小児看護学教員，大学院生）を配置し，ハイムリック法，背部叩打法と胸部突き上げ法，胸骨圧迫と人工呼吸，自動体外式除細動器の使用方法の演習を行った。

３）アレルギー

小児科の医師を講師に，食物アレルギーについての基礎知識と経口負荷試験について，ステロイド軟膏の使用方法についての講義を行った。

４）感染症と予防接種

小児科の医師を講師に，冬に流行する感染症の特徴と家庭での対応や，予防についての講義を行った。

表１　学習・交流会の開催時期とテーマ

開催時期		テーマ	参加人数
2013年度	６月	虫歯予防は，ここまでできる　～永久歯を一本も虫歯にしないために～	24
	７月	子どもの事故と応急処置・心肺蘇生法　～大切な命を守ろう～	35
	10月	学校・保育園での食物アレルギー	37
	11月	予防接種で防げる病気	12
	１月	気になる子どもへの支援	28
2014年度	６月	マイナス１歳からの虫歯予防　～私たちに今からできる事～	9
	７月	子どもの心肺蘇生法と起こりやすい事故	19
	11月	子どもの感染症と予防接種	18
	１月	子どものアレルギーについて	23
2015年度	６月	科学の力で虫歯予防　～虫歯の１本もないお口にするために～	17
	７月	子どもに起こりやすい事故と心肺蘇生法	26
	11月	子どもの冬の健康対策・予防接種	24
	１月	子どもの食物アレルギー　知ろう！考えよう！	21
2016年度	６月	虫歯予防の常識・非常識	9
	７月	子どもの事故　　応急処置の救急蘇生	31
	11月	子どもの感染症と予防接種	19
	１月	子どものアレルギーについて	16
2017年度	６月	虫歯予防の常識・非常識	9
	８月	子どもの事故　　応急処置の救急蘇生	28
	11月	気になる子どもの対応	27

５）子どもへの対応

小児科の医師を講師に，癇癪など気になる子どものサインについての講義，また発達障害のある子どもの親の関わり方として米国で開発されたペアレントトレーニングについての講義およびロールプレイを含む演習を行った。

Ⅲ．結　果

１．参加者概要

2013年度136名（開催回数：５回），2014年度69名（４回），2015年度88名（４回），2016年度75名（４回），2017年度64名（３回）が参加した。全参加者の89％が女性であり，区内在住または勤務する者の割合は87％であった。参加者の職業は，多い順に保育士（26.7％），その他（主婦，歯科衛生士，児童館職員など：20.9％），会社員（14.9％），保育園看護師（12.1％）である（図１）。

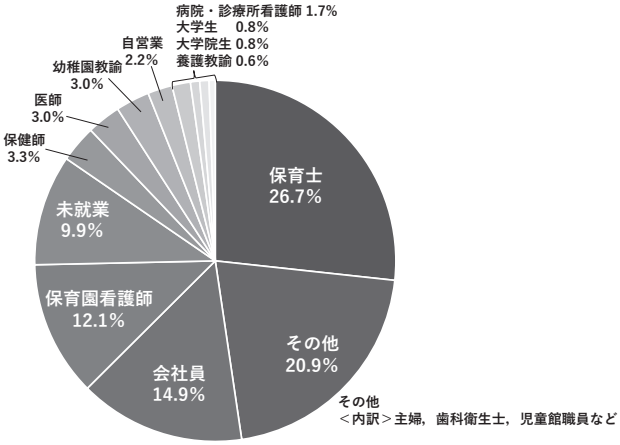

図１　学習・交流会参加者職業内訳
（2013～2017年度）

表２　年度毎の VAS 平均値

年度（回数）	回答数（n）	VAS 平均値	標準偏差
2013（５回）	125	8.80	0.50
2014（４回）	58	8.97	0.22
2015（４回）	52	9.19	0.19
2016（４回）	67	8.67	0.38
2017（３回）	59	9.10	0.12

２．アンケート結果

１）満足度

学習・交流会の内容について，３段階（①役立った②どちらともいえない③期待はずれだった）のアンケート調査の結果，「役立った」と回答した参加者の割合は，2013年度「役立った（96％）」，「どちらともいえない（３％）」，「期待はずれだった（１％）」，2014年度以降100％であった。

10段階の VAS を用いた全体の満足度について，年度毎およびテーマ毎の平均値をそれぞれ表２，表３に示す。

表３　テーマ毎の VAS 平均値

テーマ（５年間累計）	回答数（n）	VAS 平均値	標準偏差
齲蝕予防（５回）	45	9.33	0.14
心肺蘇生法（５回）	111	8.94	0.29
アレルギー（４回）	87	8.72	0.40
感染症と予防接種（４回）	65	9.00	0.41
子どもへの対応（２回）	53	8.68	0.26

５年間の年度毎の平均は8.67～9.19，テーマ毎の平均は8.68～9.33であり，参加者の高い満足度を示している。

２）参加者の感想

各テーマ最新回のアンケート調査における自由記載欄から参加者の声を全て引用し，以下に示す。

（１）学習・交流会の学びについて

〈齲蝕予防〉「*歯磨き指導や質問等もできて大変ためになった。*」「*(虫歯菌が）感染しやすい時期や予防の方法などもあらためて知ることができた。*」「*子どもたちへ指導していく立場にあるので，まずは自分自身がしっかりケアをしていこうと思った。*」

〈心肺蘇生法〉「*デモンストレーション人形などを実際に使った演習ができてよかった。*」「*正しい救急蘇生と応急処置を知ることができた。*」「*あいまいに覚えていたところを細かく教えてもらえてよかった。*」「*怪我の対応などの確認もできた。*」

〈アレルギー〉「*今まで自分で調べても，どれが最新の正しい情報か判断されずもやもやしていた。*」「*よく，数値が低いから食べてもいいと（医師から）言われているという保護者がいて心配だったが，食べさせることも意味がある（緩徐経口免疫療法）ことを知った。*」「*実際のエピペンの使用方法を見たかった。*」「*一般の方向けともあり専門用語が少なく，そのまま仕事に，伝え方など活用できることが多かったです。*」

〈感染症と予防接種〉「*冬に流行する感染症を小児の解剖生理学もふまえて話してくださりとてもわかりやすかった。*」

〈子どもへの対応〉「*(ペアレントトレーニングの実践について）具体的な方法をロールプレイで演じてもらえたので理解しやすかった。*」「*(子どもを）ほめるタイミングがわかった。*」

〈学習・交流会全体〉「*何度きても本当に勉強になります。*」

（２）学びの活用について

「*職場で共有し，子どもたちの虫歯を防いでいけたらいいなと思いました。*」「*日頃の仕事に活かしていきたい。*」「*臨床でも活用できそうな手法*」「*保育にも活かせると思いました。*」「*育児の参考にしていきたい。*」「*保育園の保護者に伝えていきたいと思う。*」

３）今後希望するテーマ

今後に期待するテーマは５つ挙げられ，子どもへの対応・ペアレントトレーニングについては2017年度からテーマに組み込んだ。

・肌のケア，湿疹などの対策法
・ファーストエイド
・薬の副作用
・注意欠陥・多動性障害やアスペルガー症候群
・てんかん

４）　運営に関する意見

「*開始時刻を少し遅くして欲しい。*」「*休日の日中の開催を希望する。*」「*演習する時間を増やして欲しい。*」

Ⅳ．まとめ

過去５年間（2013～2017年度）で，年間３～５回，５つのテーマについての学習・交流会が開催された。開催回数により差はあるが，参加者は年間64～136名であり，保育士，その他（主婦，歯科衛生士，児童館職員など），会社員，保育園看護師の順に多い。また，アンケート調査の結果から学習・交流会に参加して「役立った」という声が多く，VAS の平均点からも参加者の満足度は高いことが明らかになった。よって，学習・交流会の目標の一つである「学習・交流会が中央区の子どもや家族にとって健康資源の一つとして活用できる」については役割が果たされていることが示唆されるが，テーマや開催日時に対するニーズに応じた開催を今後検討していく必要がある。

学習・交流会での学びを保育士が職場で共有したり，保育への実践および保護者と共有したりしているなどの参加者の声からは，学習・交流会が市民の健康課題に対する情報の提供に貢献していることが示唆される。しかし，PCC における取り組みは，市民が主体となり保健医療従事者とのパートナーシップで共に目標を決め，共に計画し，共に実行し，共に評価していくこと，そして取り組みの成果を共有し合うことにある[1)]。よって，情報提供を受ける市民から保健医療従事者と共にコミュニティの健康増進を図る主体となる市民への変容を支援できるような学習・交流会のあり方を検討していく必要がある。学習のみでなく，参加者同士や参加者と保健医療従事者の意見交換や交流を促進できるような運営の工夫を図り，学習・交流会の目標の一つである「子どもの健康問題支援ネットワーク構築」に向けて，今後は市民主体，市民が保健医療従事者と共に運営する学習・交流会となることを目指していく。具体的には市民の関心の高いテーマの設定，そのテーマに関心のある市民の運営への参画の促し，学習会での学びを実践した成果の共有機会の提供などの方策を検討する。また，関心のある院内部署との

連携を深めていくことも重要と考える。

引用文献

1）聖路加国際大学21世紀COEプログラム．21世紀COEプログラム：市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点　研究成果最終報告書［Internet］．http://hdl.handle.net/10285/2446［参照 2018-10-02］
2）高橋恵子，亀井智子，大森純子ほか．市民と保健医療従事者とのパートナーシップに基づく「People-Centered Care」の概念の再構築．聖路加国際大学紀要．2018；4：9-17.
3）子どもの事故の現状について（消費者庁資料）［Internet］. http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/child/children_accident_prevention/pdf/children_accident_prevention_171031_0002.pdf［参照 2018-10-26］